

日本海新聞 2020年8月 米子あれこれ「電子顕微鏡観察」

海洋プラスチックゴミを調べたいという小学生と顕微鏡観察をした。皆生海岸、日野川、生活排水が多い小川の砂を含む水を持参している。中海一斉清掃に参加して興味をもったという。皆生の砂から水に浮かんできたゴミを拡大すると、細胞膜のようなものが出てきた。「これは樹皮の細胞では？」さらに千倍に拡大すると幾何学模様が現れる。「これはケイソウの一つでは？」プラスチックは出てこない。次に小川のヘドロをろ紙でこして観察。300倍からケイソウが現れる。2千倍、3千倍でようやく見えてくるものもある。形も大きさもさまざまなケイソウだらけである。「これは面白い！」と夢中になる。結局プラスチック片は発見できなかった。スーパードクターから「身近にあるプラスチック片を観察して比較したらどうでしょう」とアドバイスを受けた。何回でもチャレンジしよう。ここは電子顕微鏡のまち・米子市、最前線。

(とかみん)

(C) 新日本海新聞社 無断複写・転載を禁じます